

高野長英記念館の風景

雨水 うすい

二十四節気の「雨水」は 雪が雨になり 氷が解けて水になる 暖かくなってきたころのことをいいます 今季最大の大寒波に見舞われた今月 日々の生活に大きな障害をもたらしました

記念館周辺では 雪解けのころに芽吹くフキノトウはまだのようですが 春は着実に近づいてきています

【撮影:2月8日】



サクラとマツとウメと



先見性と実行力の新平



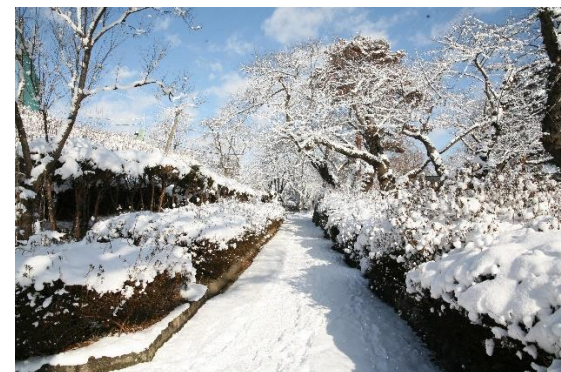
陸上競技場と水沢体育館



第31代内閣総理大臣斎藤實像



3月伐採予定のマツ



サツキの回廊

高野長英の手紙

養父玄斎への手紙（1825年・文政8年2月23日）

長英数え22歳、長英の師吉田長叔亡き後の吉田塾の発展のため大いに働いている様子を伝えています。多忙ながら4月までには医者として立派な家も建てられる見込みがついたと述べています。また、英国船の出没で、江戸幕府は外国船打払い令を発したこと、弟慶蔵の消息を案じていることなどが書かれています。